# 伊深まちづくり協議会だより

2021.9
NO 90

●今月号の主な内容

【活動 G】ごはん研　学童クッキングをお手伝い　……1
「なぜ今、“里山”なのか」講演会　……1
ソバの試験栽培を開始／標柱に案内機能を追加　……2
【名所・旧跡紹介】30　禅徳寺　……2

伊深まちづくり協議会ホームページ
http//ibukamachi.com
または　伊深まち協

## “学童クッキング”　：　伊深学童の 47 人が取り組み

―― 伊深ごはん研究会がお手伝い

▲みんなでやれば野菜を切るのも楽しい～。

▲包丁さばきに真剣

▲焼けるのが待ち遠しくて

▲よそうのも上手になりました

▲今回のメニュー

夏休み中の学童の活動を応援する試みとして、7.27（火）～8.19（木）の間の 6 日間、交流センター調理室で『学童クッキング』を行いました。

伊深学童に通う児童が各回 7－8 人、合わせて 47 人参加し、伊深ごはん研究会の会員といっしょに、「かぼちゃの煮物」「なすのマヨネーズ焼き」など伊深産の野菜を使った昼食づくりに取り組みました。

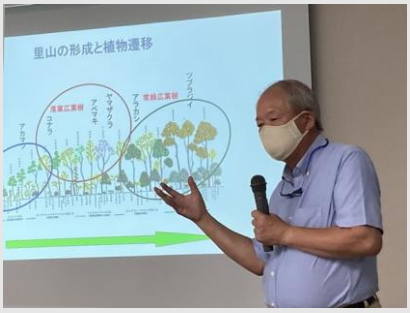
児童たちは野菜切り、配膳、皿洗いなど自分のできる仕事を探しながら、終始楽しそうに動いていました。

## 7.28（水）、「なぜ今、“里山”なのか」

―『持続可能な社会』を考える―

「日本の森と人の暮らし」－なぜ今、里山なのか－　と題した講演会が 7.28（水）に交流センターで行われ、若者ら約 30 人の参加がありました。

講師は明治の実業家澁澤栄一氏のひ孫にあたる農学博士・澁澤寿一氏で、氏は『持続可能な社会』のモデルは「人間が森を伐り、森に光が入り、多様性を生み出してきた」里山の生き方にこそある、として、『お金』中心の都市の生活から『自然の成長量』に合わせた農山村の暮らしを見直すべき、と説明されました。




講演後には質疑応答の時間もあり、若い参加者からは“今まで負の遺産としか思えなかった農地や山林の価値を、この機会に考え直してみたい”などの意見が聞かれました。

## ソバの試験栽培を開始

休耕地の活用と特産品化をめざし、休耕地 2 か所、約 250 ㎡にソバの種をまきました。ソバは比較的成長が早く、2 か月半くらいで収穫できる予定です。

## 標柱に案内機能を追加

2014 年度に設置した「伊深の里の標柱」に QR コード板を設置しました。スマートフォンをかざすとホームページの該当ページが開き、案内文が読めるようになります。9.1（水）以降利用できます。

## 伊深の名所・旧跡 紹介シリーズ

第 30 回　**禅徳寺**　（ぜんとくじ）

伊深小学校の東にあるお寺で宗派は臨済宗妙心寺派、正眼寺の四隣寺のひとつです。天文（1532～）年間に大仙祖吟が数十年修行された禅徳庵を引き継ぎ、寛文 8（1668）年に現在の地に大仙山禅徳寺が開かれました。“開山様のジョリヌギバ”とも称せられます。

えげんさんが京へ上られるとき、伊深の里に残していかれた、「箱笈（はこおい＝仏像を保管・運搬するための箱）と護持仏（ごじぶつ＝釈迦三尊像）」は現在この寺の秘蔵仏として保管され、市の文化財に指定されています。

伊深義民の事件から約 140 年後の文政 7（1824）年、佐藤家第九代の美濃守信顕は先祖の法要を営んだ際、村民先祖供養の名の元に禅徳寺において施餓鬼を行い、義民の霊を弔った、とあります。

▼位置　　標柱：あり

また、字十王前には十王堂がありましたが、昭和 26（1951）年、役場前周辺の整備に伴い、この寺の山門前西側に移設されました。

本尊は座像の聖観世音菩薩で、富加町加治田の「清水寺（第 26 番）」、同じく「龍福寺（第 28 番）」などとともに美濃西国三十三観音霊場のひとつ（第 12 番）として巡礼者の信仰を集めています。

箱笈と護持仏▸

※8 月の定例会は新型コロナの影響で開催を見合わせました。

**生活の中で、何かお困りごとはありませんか？**
ちょっとしたことならお手伝いできるかもしれません。
各地区の「(ちょっとたのむ輪)連絡員」または下記にご相談ください。　**080-1561-4013**

**伊深まちづくり協議会だより**　第90号
2021. 9. 1発行（毎月 1 回 1 日発行）
発行責任者　伊深まちづくり協議会　会長　小林　喜典
事務局　美濃加茂市伊深町927－1（※新住所です）
伊深交流センター内
電話　0574-29-1395　FAX　0574-29-0001
※ ご意見・お問い合わせもこちらまで